



市民活動の場で

もっとアピールを！

平成24年度福祉有償運送実施団体意見交換会開催
一月二十九日（火）十四時から、ウエルとばた十二階HI研修室で、「平成二十四年度福祉有償運送実施団体の意見交換会」が行われました。今回は、北九州市のいのちをつなぐネットワーク推進課主催で、福祉有償運送運営協議会の構成員三名を含む、北九州市の福祉有償運送の実施団体九団体、二十名の参加がありました。

「さわやか」からは、四名が参加しました。初めに、いのちをつなぐネットワーク推進課の今村兼之伸プロジェクト担当係長より開会の挨拶がありました。その後、意見交換会に入り、各団体の問題点や要望等について話し合いました。初めに山田理事長より「福



祉有償運送を市民に広めるためと、各団体の運転ボランティアを募集するためにも、各地域の市民活動の場を借りて『福祉有償運送』とは何かをパネルなど使って、アピールをした方が良くと思います」と話し、また「北九州市の市政番組などを通じてアピールをしていただけないでしょうか？」と話しました。

パネルを活用して

「福祉有償運送」を

もっと広めたい

今村係長より「昨年、市の方で『福祉有償運送』についてのパネルを作成しました。今後、パネルを活用して『福祉有償運送』についてもっと広めていきたいと思えます。また、市政広報課と相談してみます」と回答されました。

次に「あゆみの会」の谷口和子常務理事より「『北九州市内の福祉有償運送実施団体一覧』のパンフレットは利用者の方に向けたものだと思います。ボランティアの方も募集している事が分かるように工夫したほ

うが良いと思えます」と意見が出されました。

今村係長は、「ボランティアの方も募集している事が分かるようなパンフレットにしたいと思えます」と回答されました。

若年層のボランティアが

不足している

また、「まどか」の西村理恵氏より「ボランティアさんも高齢化が進み、若年層のボランティアさんが不足しています。そこで、福祉系の学校や運転免許証の講習等で、福祉有償運送の事やボランティア募集の声掛けをすると良いと思います」と提案がありました。

それに対して、平田淳一「運転免許証の講習では無理だと思えますが、福祉系の大学や専門学校等においてお願いして募集をかけてみたいと思えます」と回答されました。

続いて、山田理事長より「ここ数年、いのちをつなぐネットワーク推進課の福祉有償運送の担当者の方が毎年変わられています。この検討会も毎年この時期に開催していただいておりますが、二、三ヶ月後には担当者の方が変わり、毎年同じよう

送迎時止血用緊急キットを作りました

先月の「さわやか」の研修交流会で、参加された方にお渡しした「送迎時止血用緊急キット」を現在送迎されているボランティアの方々にお配りします。（下記参照）

このキットは、医療法人阿部クリニックの三好臨床工学技師長と黒田看護主任のご協力の元に作ったものです。送迎の車の中に常備していただくようにお願いいたします。



な議題について話し合っている状態です。そのことが少しでも改善されますようにご検討をお願いいたします」と述べました。

また、「陽気」の岡田嘉昭氏より「今年の四月から『障害者自立支援法』が『障害者総合支援法』に改正され、障害者の範囲に難病患者の方々が加わります。

対象の方々は、身体障害者手帳の所持の有無にも関わらず、必要と認められた障害福祉サービス等が受けられるようになりますが、どのような対応して良いのか分かりません」と話され、他の団体からも様々な意見が出されました。

最後に平田課長より「以前に行われました意見交換会の議事録を見ながら、皆様からの要望等を実施が出来るように行っています。今日あげられた議題は検討し、後日ご報告させていただきます」と話され、意見交換会は十五時三十分を終了しました。

この十年を振り返り

この先の十年を展望する

移送サービスのつどい二〇一三開催

三月三日(日) 東京ボランテニアセンター・市民活動センターと東京ハンディキャブ主催の「移送サービスのつどい二〇一三」が開催された。「さわやか」から山田と梶原が出席しました。今回の参加者は二十九名でした。プログラムの中より紙面の都合上一部を抜粋してご報告させていただきます。

「さわやか」新聞編集部

十時より、東京ボランテニア・市民活動センター会議室で開催されました。

初めに、東京ハンディキャブ連絡会代表の荻野陽一氏から「二〇一三年という年は移送サービスが構造改革特区において道路運送法八十条の許可を受けてから十年を迎えます。この十年をみなさんと共に振り返って、意見交換をし、この先の十年を展望する機会としたいと思います」と挨拶がありました。



第一部リレートーク

『移送サービスの現場から』

利用者からのメッセージ

「自分は変わった」

現在都内の移送サービスの事業所を利用されている東久留米市の男性の方から「最初自分はいろいろな

狙われた

ハイエース

東京都のNPO法人町田ヒューマンネットワークが、日本財団の助成を受けて購入した福祉車両が盗難に遭い解体されて発見されるといふ非常にショッキングな事件が都内でおこりました。事件の全容とその対応について副理事長の斉藤功さんとキャブ部門主任の大井篤史さんより報告がありました。事業所の駐車場から盗難

「平成二十四年六月八日(金)

病気を持っていて歩けない事で、サービスを利用する

ことは気が重いと思っていました。しかし、利用している内に運転手さんとのコミュニケーションがとれるようになって、気持ちが明るく、自分に自信が付き、イライラする気持ちが少なくなりました。今は運転手さんと話すのが楽しみになっています。私の性格までも変えて頂いたようです」と話されました。

移送サービスの担い手

運転協力者は今...

次は実際に今、運転協力者として移送サービスで活動されている方からのメッ

セージです。

腎臓病連絡協議会すずらん会の会と練馬区社会福祉協議会のチエアキャブドライバーの戸川滋さんの報告です。移送サービスに関わるようになって三年目になります。定年退職後は、車の運転が好きなので利用者の方々と移動する喜びを共有できればと思います。練馬区報の記事を見て入会しました。

自分が思っている以上に車の運転と利用者が一体となるデリケートさが求められる事を知りました。実際に活動してみてもうか？

初期は、怖さや不安要素が強かったです。障害を持つ人々の事や用具・装具な

七月十四日横浜青葉警察署より本牧ふ頭のコンテナの中から二十台分の車輛のパーツが見つかり、その中の一つに当事業所のハイエースのパーツ(エンジン)がありました。

税関を通る時にエンジン番号から引かかったそうです。当団体では、今回の件を真摯に受け止め、個人情報保護の保護にしまして、管理や取扱いについて再度徹底を図るとともに、再発防止に努めて行きたいと思っております」と述べられました。

どをあまり知らず、もった学習が必要だと感じました。利用者さん毎の状態・性格を早期に把握することが必要で、特に透析後の疲労感や想像以上に大きいものであり、車の発進や加速、段差の乗越え等の注意が必要だと思えます。

現役時代の『会社仕事』とは異なり、利用者さんとの会話が楽しいし、人生の大先輩の方々に教えられる事も多いです。

毎日が緊張の連続ではありますが、運転が慣れてしまふ事による油断がいけないと思えます。

気をつけていることは？

自己の健康管理と余裕のある行動・振る舞い(焦った気持ちが一番危ない)が安心・安全な移送サービスをする上で一番大切な事だと思えます」と話されました。

第二部の講演会は「道路運送法と向き合って十年移送サービスはこれからどこへ？」と題し、講師には北星学園

大学・早稲田大学・東京大学非常勤講師・健やかまちづくり理事長秋山哲男氏を迎えて話がありました。

この講演のあと、この十年を振り返り参加者との交流・意見交換タイムを行い、十七時に閉会しました。